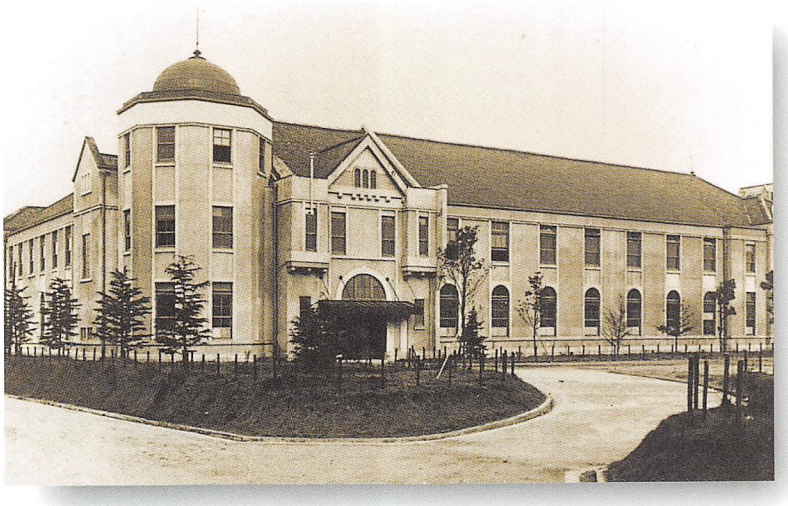
発展期

大学昇格から終戦まで

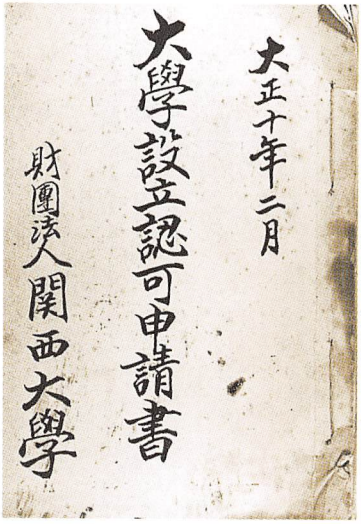
大正11年(1922)～昭和20年(1945)

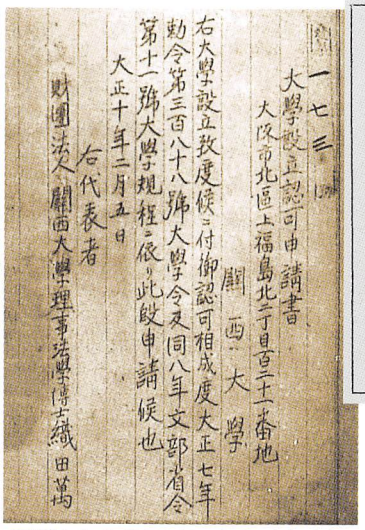


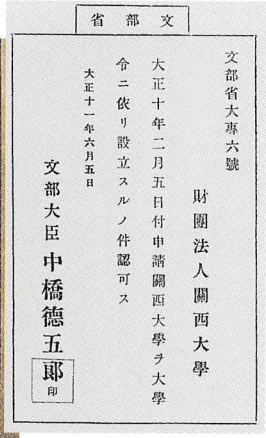
学の実化

学理と実際との調和
国際的精神の涵養
外国語学習の必要
体育の奨励

総理事・学長　山岡順太郎
大阪商業会議所会頭ほかの要職を兼ねる大阪財界の重鎮で、山岡の援助のもと、関係者が在阪著名の実業家を訪ねて依頼した結果、総額32万円余りの寄付金を集めることができた。また、新しい大学の指導理念として「学の実化」を唱導。学理と実際との調和を説くこの理念は、その後、関西大学の学是として定着した。◆2


大正十年二月
大學設立認可申請書
財團法人關西大學


一七三
大學設立認可申請書
大阪市北區上福島北二丁目百二十一番地
關西大學
右大學設立教度候ニ付御認可相成度大正七年勅令第三百八十八號大學令及同八年文部省令第十一號大學規程ニ依リ此段申請候也
大正十年二月五日
右代表者
財團法人關西大學理事法學博士織田萬


文部省
文部省大專六號
財團法人關西大學
大正十年二月五日付申請關西大學ヲ大學
令ニ依リ設立スルノ件認可ス
大正十一年六月五日
文部大臣 中橋德五郎 印

大学設立認可申請書（上）と学則に掲載された認可書の写し（右上）
◆3◆4

グラウンド開き
大正15年に完成した当時、東洋一のグラウンド。この建設にあたって、山岡総理事は2万5千円の巨費を寄付した。◆5

大正11年6月5日
この日、関西大学は名実ともに「大学」となった。

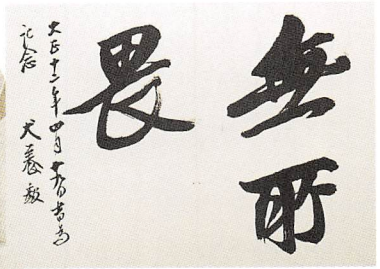
——大学令に拠る大学への昇格　それは、関係者一同の悲願であった。

学の実化講座

ポール・クローデル（駐日フランス大使）
「フランス語について」
（大正11年5月来学）◆6

ハーバート・ガウェン（ワシントン大学教授）
「東洋と西洋との関係」
（大正12年2月来学）◆9

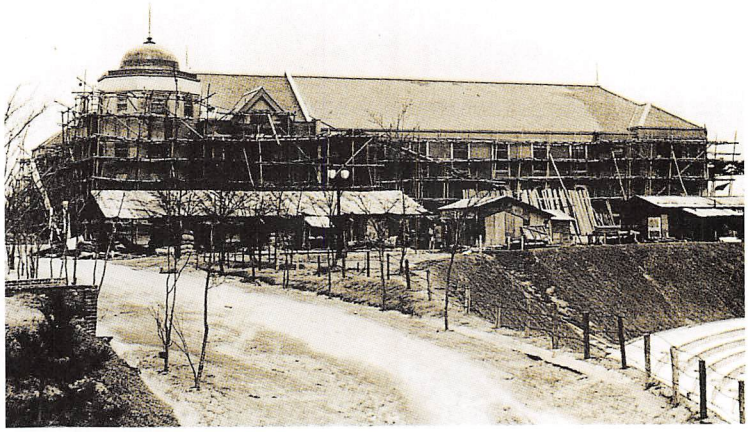
犬養毅（逓信大臣）
「確固不動の信念を樹立せよ」
（大正12年4月来学）◆7



犬養の揮毫
「学の実化」講座の講師として来学した犬養は、来学者芳名録に「畏るる所なし」と記した。その9年後、昭和7年に5･15事件で暗殺された。◆8

山岡総理事は、学問の社会的価値を高め、実際的な知識を取り入れることを目的として「学の実化」講座を開催した。講師には中橋徳五郎、関一、後藤新平、カール・ビッケルをはじめとして、各界において第一線で活躍する内外多数の著名人を招聘し、講座は大正11年5月から昭和2年11月までの間に33回開かれた。

図書館
昭和３年竣工。本学初の鉄筋コンクリート造
◆10



建築中の大学本館
昭和２年竣工。北浜にあった住友合資会社の本社社屋を受贈、移築
◆11

充実に向かう学生生活

佐々法学部教授の授業風景
大正14年、女子学生第一号（聴講生）の北村兼子（前列）も受講。北村は在学のまま朝日新聞に入社、記者のかたわら活発な文筆活動を続ける。飛行免許も取得し、卒業記念の単独飛行まで果たしたが、27歳で夭折した。右上は飛行服姿の北村兼子 ◆12◆13

昭和6年の卒業記念大懇親会
このころ、学園も躍進期にあった。◆14

図書館2階の閲覧室　昭和14年ころ　◆15

大学昇格に伴う学内諸施設の整備が進むのと並行してスポーツ活動も盛んになった。野球部の海外遠征や全国制覇、相撲部・竹田繁七の全国優勝、庭球部・倉光安峯のデビス・カップ出場、陸上部・大島鎌吉のロサンゼルス五輪三段跳び銅メダルなど、栄光の記録が続出した。

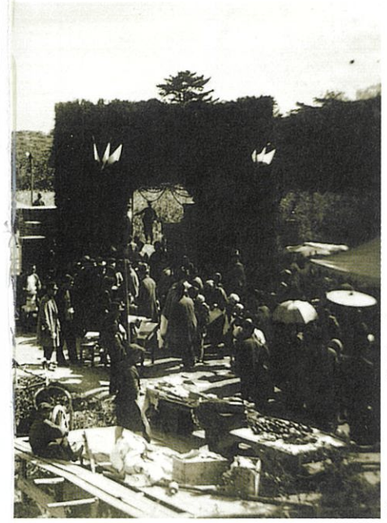
第２回大学祭ポスター
昭和2年10月　◆16

千里山の豊かな大自然を舞台に学生生活はのびのびと展開された。文化部では音楽、弁論、雑誌、文芸、演劇などの各部が活発な活動を始め、英語会、千里山短歌会、絵画芸術部、広告研究会といった同好会も結成された。学生たちは自由を謳歌した。

西村幸生　野球部黄金時代の名投手。昭和7年、野球部が全国優勝を果たすのに大きく貢献した。◆17

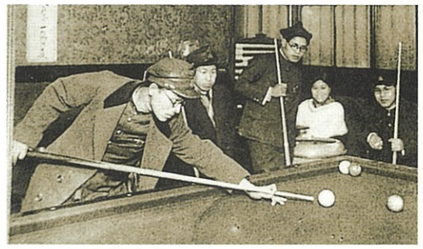
大島鎌吉　第10回ロサンゼルスオリンピック（昭和7年）の陸上・三段跳びで銅メダル　◆18

倉光安峯　昭和12年、全日本学生庭球選手権シングルス優勝。昭和13年のデビス・カップに出場　◆19



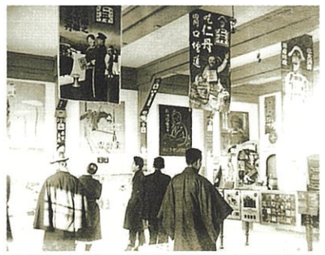
第１回大学祭の入口アーチ
大正15年10月、大運動場の完成を契機に始まった大学祭は、それまでに前例のない催しで、多数の観衆を集め、大阪名物の一つとなった。入口アーチは現在、新関西大学会館が建っている付近　◆20

第７回大学祭の開会式　昭和７年、千里山グラウンドでの分列行進　◆21



いこいのひととき
学生たちは、学業の余暇にカフェーやビリヤードを楽しんだ。
◆22◆23

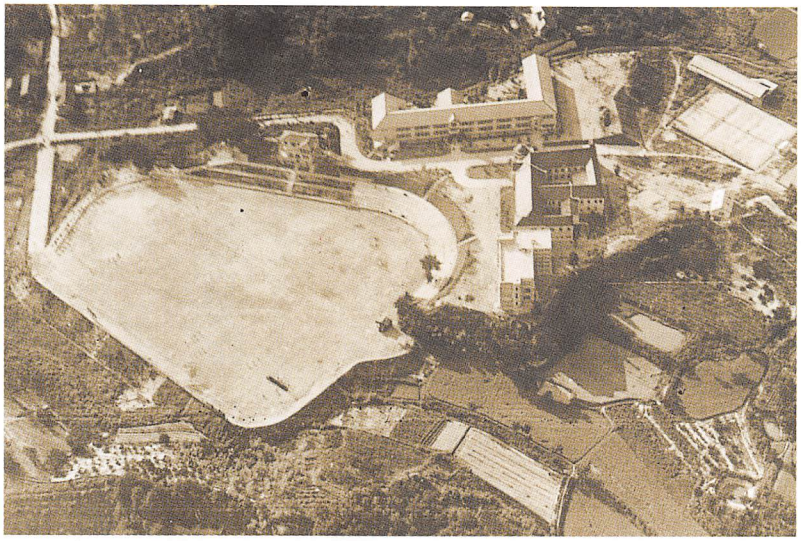
学の実化・学外講演会の盛況　大正13年、朝日新聞社講堂での文芸講演 ◆24



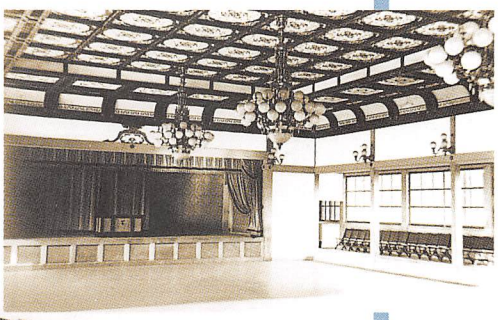
広告展覧会　皇太子殿下ご成婚記念行事の一つ。大正13年1月　◆25

音楽祭　毎日新聞社講堂での演奏会
◆26

天六学舎
昭和4年、福島学舎は東海道線拡幅のために立ち退きを迫られ、大淀区長柄中通2丁目に校地を購入、新校舎を同年9月に建て専門部、関西甲種商業、第二商業がここへ移った。◆27



昭和4年ころの千里山キャンパス　◆28



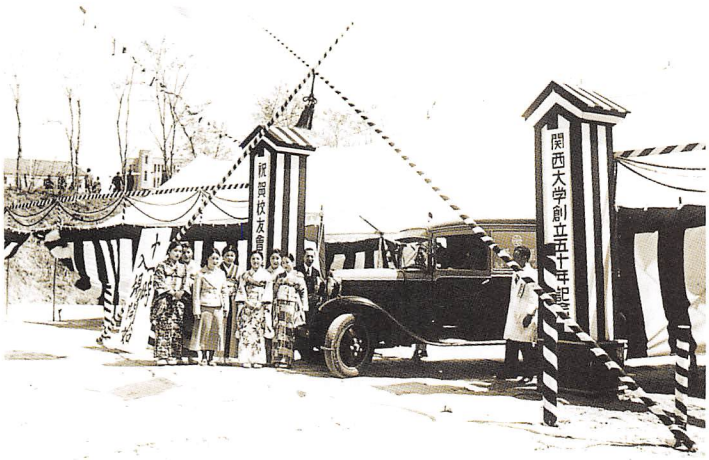
威徳館
昭和7年、昭和天皇の即位大礼大饗宴場の建物を移築したもの。内部の天井とシャンデリア（右上）はひときわ豪華だった。
◆29◆30

創立50周年記念式典

昭和11年5月2日、関西大学は大阪市中央公会堂で創立50周年記念式典を挙行した。記念行事は記念式典をはじめ、50年史・記念誌の発行や祝賀校友会、運動各部の模範競技、祝賀行列など、全学あげて盛大に実施された。また、昭和9年に焼失した予科校舎が昭和11年4月に完成した。記念式典はその披露を兼ね、本来の創立記念日を半年繰上げて実施された。

創立50周年記念式典　右上の写真は仁保亀松学長の記念講演「教育刷新の急務を論ず」
◆31◆32

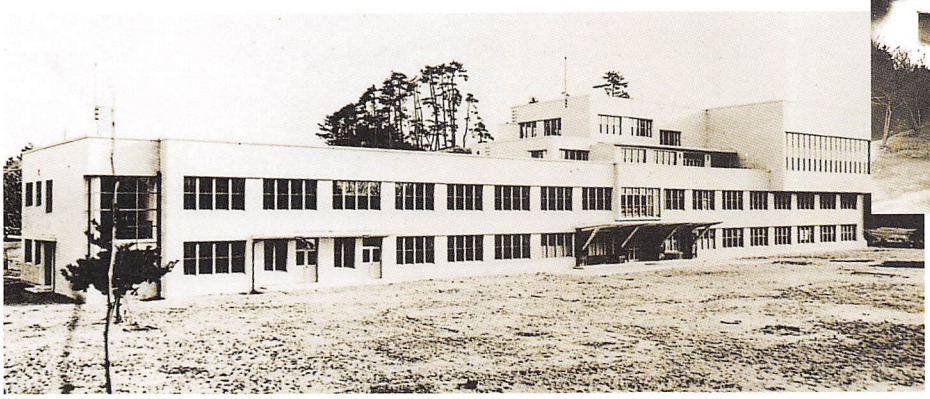
記念ポスター　◆33



祝賀校友会　◆34

『記念論文集』と『五十年史』（右）　◆35◆36

炎上する予科校舎
昭和9年12月12日深夜　◆37



新築なった白亞の予科校舎　昭和11年4月竣工　◆38

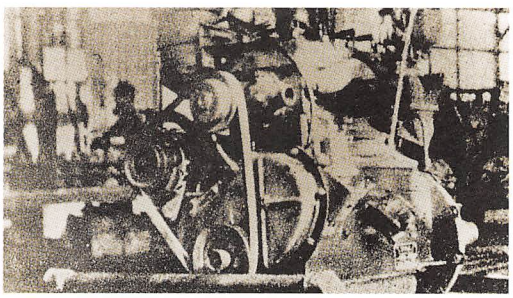
ゆらぐ自由

予科生の実弾射撃訓練
日中戦争、第２次世界大戦と戦争の拡大に伴い、学園にも軍事教練の強化や勤労動員が課せられるようになり、自由な研究や教育にも厳しい制限が加えられた。写真は昭和14年、長岡で射撃訓練を行う予科生たち ◆39

防火用貯水池を掘る勤労奉仕
昭和18年 ◆40

学徒動員
昭和19年11月、大阪工機製作所で引率教授を囲む専門部学生たち ◆41

学徒出陣
昭和18年10月、大学高専学生に対する徴兵猶予令が廃止され、学生は同年12月に学徒出陣で軍隊に入営、学業半ばで銃をとらなければならなかった。写真は大阪市役所前を行進する学生たち ◆42



関西工業専門学校の研究実習用機械
軍部は私立大学の文科系を無用とし、統合を計画した。本学は生き残り策として、昭和19年4月に一般機械、舶用機械、航空機械の３専攻科からなる関西工業専門学校（修業年限３年）を設置した。 ◆43